

# 短期出荷できる新地鶏を開発した

畜産試験場 中小家畜・環境担当 (0974-22-0673)

県では昭和 62 年度に「豊のしゃも」を開発・普及し、しゃも独特のコクと歯ごたえなどで一定の評価を得ている。しかし、飼育期間が 150 日以上と長いため販売価格が高いなど大量販売に課題がある。

このため、販売業者から県内のスーパーなどで販売できる地鶏開発の要望を受けて、飼育期間 80 日～90 日と「豊のしゃも」より短期間で出荷でき、特定 JAS 規格の条件に対応する新地鶏を開発した。

新地鶏は、発育が良く、経済性も優れ、食味試験においても高い評価を得ている。また、外見は、烏骨鶏を交配しているため毛冠や顎ひげなどに他の地鶏と異なる特徴がある。

### 【普及したい技術のポイント】

1. 在来種由来血液百分率が62.5%であり、特定JAS規格(50%以上)を満たす。(図1)
2. 羽色は茶色で頭部に特徴的な毛冠と顎ひげを持ち、性質はおとなしく、飼いやすい。(図2)
3. 85日齢の体重は、雄3,495g、雌2,650gとブロイラーに近い体型で、食鳥処理場での機械処理に対応している。(表1)
4. 85日齢の飼料要求率は、2.91と「豊のしゃも」(5.86)の半分程度である。(表1)
5. 生体重量に対するモモ肉の割合は21.0% (625g)、ムネ肉の割合は13.7%(404g)であり、正肉割合は34.7% (1,029g) である。(表2)
6. 食味評価では、うまみ、食感などが優れ、くさみが少ない傾向との評価を得た。
7. 「おおい冠(かんむり)地どり」と命名し、普及を図る。

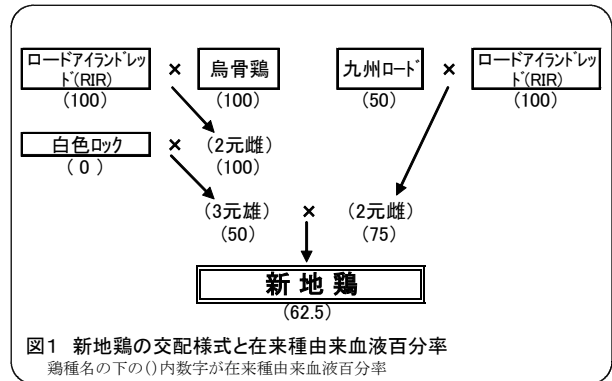


図2 新地鶏の外観

### 【残された問題点とその対応】

1. 特定 JAS 規格の地鶏と表示するためには、80 日以上飼育し、28 日齢以降は 1 m<sup>2</sup>当たり 10 羽以下の平飼いが要件である。
2. 銘柄確立のために出荷日齢など飼育マニュアルの統一を図る。

表1 発育成績(単位:g)

日 齢	14	28	42	56	70	80	85	90
雄	255	775	1,350	2,090	2,850	3,285	3,495	3,665
雌	240	685	1,150	1,685	2,190	2,500	2,650	2,775
平均	248	730	1,250	1,888	2,520	2,893	3,073	3,220
飼料要求率	—	1.50	1.97	2.31	2.57	2.79	2.91	3.06

表2 解体成績(90日齢)

	生体重量に対する割合(%)							正肉重量(g)	
	中抜き	モモ肉	ムネ肉	ささみ	手羽	可食内臓	腹腔内脂肪	モモ肉	ムネ肉
雄	74.8	21.6	13.2	3.4	8.8	4.4	3.1	730	446
雌	72.3	20.3	14.1	3.5	8.4	5.0	3.9	520	362
平均	73.5	21.0	13.7	3.5	8.6	4.7	3.5	625	404

注:可食内臓は、肝臓、心臓、筋胃、腺胃とした。